

# 飛脚から郵便へ

江戸時代、幕府に五街道(→p.25)の基点として定められた日本橋の辺りには多くの飛脚問屋が集まっていた。明治政府になり、飛脚問屋は、郵便と貨物輸送の2つの事業に分けられた。

情報を正しく伝えるために、通信制度を整えることが、近代国家にとって重要なことなんだ！



創業時の東京郵便役所  
日本橋元四日市町にあった旧幕府の建物を改装して東京郵便役所が置かれた。

## <日本橋からはじまった>

1871(明治4)年、郵便は明治政府の事業として日本橋元四日市町(現・日本橋一丁目)で開始された。貨物輸送は、1872(明治5)年に陸運元会社(現在の日本通運の前身)が創立され、民間事業として発展していった。



### 四日市駅通寮(郵便役所)

1874(明治7)年、現在の日本橋郵便局がある場所に四日市駅通寮が建てられた。外国人建築家から西洋建築を学んだ林忠恕による設計で、モダンな建物は東京名所の1つとなった。

### ●郵便集配人

ポストから集めた郵便物を受取人に配達する。徒歩のほか、馬に乗って行った。



### 創業時の郵便集配人

制服は創業時から右の絵のように定められていて、人々の目をひいた。



### ●通運丸

貨物輸送でつかわれた蒸気船。発着所は両国橋(現・東日本橋)の近くに設けられた。

通運丸は、石川島造船所(→p.100)でつくられたのよ。



## 整えられた郵便制度

近代国家を目指す明治政府は、通信制度を整えることに力をそそいだ。そのため、郵便は政府の事業となり、郵便物をいつでも差し出せるポストの設置や、料金をはらった証拠として切手の使用など、さまざまな制度が整えられていった。

### ●はじめての郵便ポスト

最初の郵便ポストは書状集め箱とよばれる木製のものだった。東京市内には12か所設置され、そのそばには切手売さばき所も設けられた。



郵便箱を垂れ便箱と読みまちがえて、トイレと感じがする人もいたんだって！

### ●はじめての切手

創業時の郵便料金は距離制で、最低料金は100文だった。全国均一の料金になったのは1873(明治6)年から。



### ●はじめての郵便はがき

1873(明治6)年に発行された。当時の日本は厚手の洋紙をつくる技術がなく、うす手の洋紙を折り重ねて強度を高めようとしたため、形状が2つ折りだった。



## 通信省ができた

明治政府は、1885(明治18)年に内閣制度(→p.99)をつくり、それにもなつて通信省を設けた。通信とは、郵便、電信、電話などの通信全般を意味し、通信省はそれらを管理した。

1949(昭和24)年、通信省は郵政省と電気通信省とに分けられた。郵政省は現在の日本郵政グループの前身で、電気通信省は現在の日本電信電話(NTT)の前身。



### 通信省庁舎

1910(明治43)年、京橋区木挽町(現・銀座八丁目、銀座郵便局の地)に建てられた本格的なルネサンス様式の建物。関東大震災で焼けてしまった。

## 日本の郵便制度を整えた人

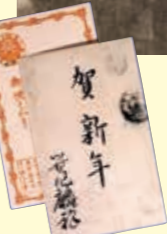
前島密(1835~1919)

イギリスの郵便制度を参考に、だれにでも利用できる新しい郵便制度を整えた。近代郵便制度を先頭に立つて創設した人物として、「郵便の父」とよばれている。



## 郵便はがきと新年のあいさつ

日本には古くから新年のあいさつを交わす風習があった。郵便制度が整えられて郵便はがきが発行されると、年賀状を送る習慣が急速に広まっていった。1899(明治32)年には年賀特別郵便(年末の一定期間に差し出された年賀状を元旦に配達するサービス)が開始された。



明治のころ、はがき売り出しで混雑する郵便局前のようす。



明治初期の年賀状。はじめてのカード形の郵便はがきで、1875(明治8)年から使用された。



お年玉くじつき年賀はがき。1949(昭和24)年に発売が開始された。